

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習I NUS3434MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 三橋 睦子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、専任教員4名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 座学での知識・技術を用いて急性の経過をたどる成人期・老年期の対象を全人的に理解する。</p> <p>2) 生命の危機的状態から回復に向けた生活を支援するための看護実践能力を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 生命の危機状態にある対象（成人・老年期）および家族へのケアに必要な態度を身につけることができる。</p> <p>2) 対象（成人・老年期）の発達課題をふまえた急激な健康状態の悪化について理解することができる。</p> <p>3) 急激な健康状態の悪化による生体反応を理解し、回復に向けた看護が実践できる。</p> <p>4) 対象（成人・老年期）と家族がどのように危機的状態について受け止めているかを理解し、不安の緩和に向けた援助を実践することができる。</p> <p>5) 身体機能の変化や喪失が生活様式に及ぼす影響について理解し、対象（成人・老年期）および家族が受容するための援助ができる。</p> <p>6) 危機的状況にある対象（成人・老年期）へのチーム医療と保健医療福祉の連携について学ぶ。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2022年9月～ 2023年3月 3週間（135時間） /1グループ 久留米大学病院 ・急性期病棟 ・手術室 ・中央滅菌材料部 ・救命救急センター	<p>1. 実習スケジュール</p> <p>1日目：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション</p> <p>2日目以降：病棟または救命センターでの実習</p> <p>2. 実習方法</p> <p>1) 原則として患者1名を受け持ち、看護師や教員、実務者である看護師からの指導を受け看護過程を展開する。</p> <p>2) 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にし、看護師および教員の指導を受けながら実践する。</p> <p>3) チームケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施し、適切に報告・連絡・相談する。</p> <p>4) 日々の実習を振り返るカンファレンスでは、指導にあたった看護師など実務者にも同席して頂き、積極的に自身の意見を発言し、メンバーの意見を聴き問題解決を行う。</p> <p>5) 実務者が行っているカンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。</p>	<p>1) 生活援助技術I、II、診療に伴う援助技術の既習の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨む。</p> <p>2) 受け持ち患者に対する経過記録を毎日記載し、翌日の計画を立案して臨む。</p>	<p>□毎日の経過記録60分程度</p> <p>□翌日の計画立案30分程度</p> <p>□必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する病態生理、看護技術の学習、あるいは看護過程の展開作成に60分程度</p>		
テキスト	<p>1) 林直子、佐藤まゆみ（編）：急性期看護I 概論・周手術期看護 南江堂 改定第2版 2020年</p> <p>2) 佐藤まゆみ、林直子（編）：急性期看護II 救急看護 南江堂 改訂第2版 2020年</p> <p>3) 野崎真奈美 他（編）：成人看護技術 南江堂 2021年</p> <p>4) 医療情報科学研究所：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 2019年</p>				
参考書	<p>系統看護学講座 成人看護学 2呼吸器、3循環器、5消化器、7脳・神経、11アレルギー・膠原病・感染症、医学書院</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
総括評価	<p>1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。</p> <p>2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	指導の必要性に応じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習Ⅱ NUS3435MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、専任教員2名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>生涯にわたりコントロールを必要とする疾患をもつ成人期・老年期の対象を理解し、日常生活援助や生活の再構築を支援し、対象のQOLの維持・向上を目指した看護実践能力を修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の発達課題を踏まえ、生涯にわたりコントロールを必要とする疾患を持つ対象の身体・心理・社会的側面を理解することができる。 2) 生活の調整を必要とする対象の健康障害に応じた日常生活援助が実践できる。 3) 慢性の疾患をもつ対象と家族に対し、自己管理を促す援助を実践できる。 4) 対象と家族の病期に応じた、その人らしい生活の再構築をはかるための援助が実践できる。 5) 対象と家族に対する包括的アプローチとサポートシステムおよび医療福祉連携の必要性が理解できる。 6) 専門職者として必要とされる態度を身につけることができる。 				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2022年9月～ 2023年3月 3週間（135時間） /1グループ 久留米大学病院 慢性期病棟 緩和ケア病棟 外来 医療連携センター	<ol style="list-style-type: none"> 1) 久留米大学病院で3週間の実習を行う。 2) 原則として患者1名を受け持ち、その患者に必要な日常生活援助や自己管理を促す援助等を通し、看護過程を展開する。 3) 実習期間内に、医療連携センター実習と、外来実習、緩和ケア病棟実習を行う。 4) 第3週目は学内で実習を振り返り、ケースレポート作成と実習報告会を行い、慢性期看護の学びを共有する。 5) 病棟で開催される実務者のカンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養生活支援論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、フジカアセメント技術、看護過程Ⅰ、Ⅱ、健康教育方法論、家族看護論の学習内容を十分に復習して臨んで下さい。 2) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既修の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨んで下さい。 	<p>毎日の経過記録 60分程度</p> <p>翌日の看護計画 30分程度</p>		
テキスト	鈴木久美、籠持知恵子、佐藤直美：慢性期看護、改訂第3版、南江堂 野崎真奈美ほか：成人看護技術、改訂第2版、南江堂				
参考書	鈴木志津恵・藤田佐和：成人看護学 慢性期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカワ 鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学、緩和・ターミナルケア看護論 第2版、ヌーヴェルヒロカワ 梅田 恵、的場典子：緩和ケア 第2版、南江堂				
成績評価					
方法（割合）	基準				
総括評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなど、カンファレンスなどを通して総括評価とする。 2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。 <p style="text-align: center;">*ただし、出席3／4以上に満たないものは評価対象としない。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	各担当教員よりフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習Ⅲ NUS3474MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>療養生活支援論Ⅴで学習した精神看護における知識・技術・態度を統合して、精神に障害のある人および家族を理解し、個別的な看護援助を実践できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神の障害をもつことへの理解ができる。 2) 患者の権利擁護に努め、信頼関係を構築し、援助することができる。 3) 患者との関係から生じる相互作用から、自己理解を含む対人理解について理解できる。 4) 受け持ち患者の看護過程が展開できる。 5) 主な精神科治療とその目的が説明でき、看護師の役割について理解できる。 6) 精神科での事故防止の対策について説明できる。 7) 精神科外来を受診する患者の治療過程を理解できる。 8) デイケアでのスタッフの役割が理解できる。 				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2022年9月～ 2023年3月 2週間（90時間） /1グループ 久留米大学病院 のぞえの丘病院	<ol style="list-style-type: none"> 1) 1事例を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 1週目は看護計画立案、2週目は実施・評価し、修正する。 3) 日常生活の援助プログラムの他、各種ミーティングに参加する。 4) プロセスレコードにより、看護場面を再構成し、評価する。 5) 外来実習では、通院患者の状況を査定し、看護師の役割を理解する。 6) デイケアでは、プログラムに参加し、メンバーとの交流をもち、援助を考案する。 7) 実習先で実務者の指導を得る。 	<p>実習 3日目：問題関連図</p> <p>実習 5日目：看護計画</p> <p>実習 6日目：プロセスレコード</p> <p>実習 10日目：実習記録まとめ</p>	毎日 2時間 程度		
テキスト	こころの生涯発達（1年次）、療養生活支援論Ⅴ（3年次）で使用したテキスト、プリント類				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 酒井隆、宮本聖也他編；こころの治療薬ハンドブック第11版 星和書店 2018 2) 日本精神科看護協会監修；平成27年版 新・看護師のための精神保健福祉法Q & A 中央法規 2015 3) 姫井昭男著；精神科の薬がわかる本第4版 医学書院 2019 				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%）	情報収集・アセスメント、問題関連図、看護計画、毎日の計画、経過記録、プロセスレコード、外来・デイケア実習、治療と看護、患者との関わりに関して、実践力を総合的に評価する。				
実習態度（20%）	時間・規則の厳守、言葉づかい、身だしなみ、提出物の期限の厳守、自主性、報告・連絡・相談、カンファレンスに臨む態度から評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	実習課題 提出された課題に対しては、個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援実習 NUS3464MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 跡上 富美、加藤 陽子、岡村 光子、永田 真理子、南篠 妃咲				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子とその家族の身体的、心理・社会的特性を理解し、健康の保持増進と役割の獲得ができるための看護の基礎的能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を説明できる。 2) Wellness の視点から対象の看護上の問題を把握し、問題解決のための援助方法を説明できる。母子とその家族に対する保健医療福祉活動チームの中での看護の役割を認識し、連携及び調整のあり方を説明できる。 3) 自己の看護実践や体験した看護の実際をとおして、母子とその家族に対する看護のあり方について考察し、説明できる。</p>				
授業計画					
実習期間	実習内容	準備学習（予習・復習等）			必要時間
2022年9月～ 2023年3月 2週間（90時間） /1グループ	<p>1) 久留米大学病院総合周産期母子医療センター産科・不妊部門、産科外来で、実務者の指導を得て2週間の実習を行う。</p> <p>2) 妊産褥婦を対象に、学生2名で1事例を1週間程度受け持ち、看護実践を行う。</p> <p>3) 新生児を対象に、胎外生活適応・生理的変化に関わる観察・看護実践を1週間程度行う。</p> <p>4) 産科外来において1日、妊婦と関わり妊婦検診・保健指導の見学・実践を行う。</p> <p>5) 母性看護に関わるテーマでのカンファレンスに向けて、事前準備を行い、グループメンバーとの討議を行う。</p>	<p>1) 妊産褥婦、新生児の身体的・心理社会的特性について、講義資料を基に予習を行い、実習に臨む。</p> <p>2) 実習で実践する看護技術を技術チェックリストで確認し、予習を行い、実習に臨む。</p> <p>3) 受け持ち事例への毎日の看護目標・計画、新生児・妊婦に対する毎日の学習目標を立案し、それを基に実践した看護を振り返り、翌日の目標設定に繋げる。</p>			<p>毎日の記録 60分程度</p> <p>翌日の看護計画 30分程度</p>
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2021				
参考書	医療情報科学研究所編：病気がみえる VOL.10 産科 第4版、メディックメディア 北川真理子編：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 第2版、メヂカルフレンド社、2015				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	<p>1) 以下の2つの項目が満たされていることが評価の条件である。</p> <p>① 実習時間の1/4以上の欠席がないこと ② 指定された全ての記録物が期限内に提出されていること</p> <p>2) 実習目標に対する到達度をポイント化し、評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	提出された記録・課題に対する評価は毎日口頭または記録にて返す。				

科目名 ナンバリングコード	高齢者生活支援実習 NUS3443MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	4単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>老年期にある対象を総合的に理解し、多様な看護の場における高齢者とその家族の健康レベルに応じた適切な看護を実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、ライフステージおよび健康課題について説明できる。 2) 高齢者およびその家族の健康問題をとらえ、その人らしさや強みを活かし、個別に応じた看護を実践できる。 3) 保健・医療・福祉の専門職の役割と連携・協働における看護職の役割について説明できる。 4) 高齢者の尊厳の保持、QOLの維持向上及び自立を支援するための保健・医療・福祉における社会資源とその活用について説明できる。 5) 豊かな人生を経てきた先輩である高齢者とのかかわりを通して老年観を養うことができる。 				
授業計画					
実習期間・場所	授業の内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2022年9月～ 2023年3月 4週間(180時間) 介護老人保健施設または介護老人福祉施設 デイケアまたはデイサービスセンター 久留米市生涯学習センター 地域包括支援センター 看護小規模多機能型居宅介護	<ol style="list-style-type: none"> 1. スケジュール 1～3週目：介護老人福祉施設または介護老人保健施設の施設実習(デイケア又はデイサービス実習2日、生涯学習センター1日の実習を含む) 4週目：地域包括支援センター1日 看護小規模多機能型居宅介護2日 2. 実習方法 1) 施設実習では1名の高齢者を受け持ち、教員・看護師の指導のもと、情報収集、情報の整理・分析より健康問題を明らかにする。健康問題に対して、その人らしさや強みを活かした看護を実践する。 2) デイケアまたはデイサービスに参加し、在宅療養中の要支援・要介護者の支援やアクティビティケアを実施する。 3) 生涯学習センターの実習では、サークル活動に参加して地域の高齢者との交流を通し、高齢者の社会参加について学ぶ。 4) 地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センター、看護小規模多機能型居宅介護の役割を学ぶ。 5) 最終日は学内で報告会を実施する。実習グループごとに学修成果(施設の特徴や援助内容・学びについて)を報告し情報交換を行う。午後：実習レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の発達課題、高齢者の身体・心理・社会的特徴、認知機能障害と行動心理症状および認知症高齢者の看護、介護保険の仕組みとサービス、高齢者の生活援助技術、アクティビティケアの意義、自己の老年観、看護小規模多機能型居宅介護の概要について予習を行い実習に臨む。 ・ 受け持ち高齢者に対する経過記録を毎日記録し、翌日の計画を立案して臨む。 ・ 受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習及び復習 	<p>毎日の経過記録60分程度、翌日の計画立案30分程度。 受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習各60分程度。</p>		
テキスト	これまでの講義で使用したテキスト・資料および参考書を十分に活用する。				
参考書	新たな課題・学習内容については、文献等を活用すること。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習内容(80%)	到達目標の達成度を予習・復習状況、看護の実施状況・評価および記録より評価する。				
実習態度(20%)	出席状況・実習態度・チームワーク等を評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	実習記録およびカンファランス等でコメントする。				

科目名 ナンバリングコード	在宅生活支援実習 NUS3484MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 渡邊 理恵、山下 寛子、森永 朗子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域で健康障害をもちながら生活する人々および家族を理解し、在宅看護活動を展開するための基本的な知識、技術、態度を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者の健康問題と生活および療養環境を関連づけてとらえ、実際の援助活動を通して看護の役割について述べることができる。 2) 在宅療養者の健康問題を総合的にとらえ、行われている個別性に応じた具体的な援助方法の根拠を説明することができる。 3) 訪問看護ステーションの運営・機能・役割および在宅療養を支えるための社会制度とその活用方法について説明することができる。 4) 地域包括ケアにおける関連機関・関連職種との連携の実際を学び、連携の必要性および看護師の果たす役割について説明することができる。 				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2022年9月～ 2023年3月 2週間(90時間) /1グループ 訪問看護 ステーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日;オリエンテーション、実習目標の確認、事前学習 (GW) 2) 施設実習 期間:6～7日間(第1週の帰校日及び祭日を除く) 時間:8:30～16:00(実習施設により異なる) [内容] 初日:施設オリエンテーション、訪問看護師同行開始 ① 受け持ち療養者の看護過程の展開 ② 訪問看護師の療養者に関する支援(訪問、連絡調整、ケア会議等)の見学 ③ 訪問看護ステーションの管理・運営・役割に関する調査 ④ 訪問看護師からの指導助言 3) 実習最終日 ① 発表会:実習施設の特性・地域の特性・行った看護の振り返りについて発表する。 ② まとめ:記録整理・課題レポート作成 16:30 記録提出 	在宅生活支援実習にあたって、臨床看護や社会福祉制度及び在宅看護論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識が必要となりますので、復習して臨むようにしてください。	実習事例の訪問前の計画、訪問後の記録など1日2時間程度		
テキスト	なし				
参考書	押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株) インターメディカ 2016年 正野逸子・本田彰子 編 関連図で理解する 在宅看護課程 第1版 (株) メディカルフレンド社 2015年				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習内容(70%)	到達目標の達成度の評価:実習記録等により評価する。				
実習態度(30%)	看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢(積極的に学ぶ姿勢)、出席状況等により評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	作成経過の中でその都度フィードバックする。				